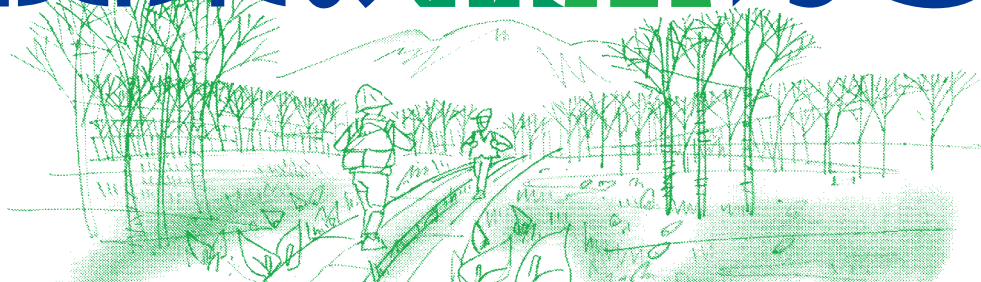


平成19年 5月1日

第38号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



深山の春（群馬県南牧村）
（撮影：群馬署 菊池 昭次氏）

特集 … 平成19年度における関東森林管理局の取組について
— 「美しい森林づくり」の推進 —

企画調整室

私の視点 「トチの森づくり」を目指して
五泉トチ守りの会 石黒 俊夫 氏

森林官からのおたより
（棚倉森林管理署 高城森林事務所
森林官 山田 隆也 さん）



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。

平成19年度における関東森林管理局の取組について

「美しい森林づくり」の推進

企画調整室

平成19年度は、昨年9月に策定された新たな「森林・林業基本計画」の下で、「国有林野の管理経営に関する基本計画」に基づき、公益的機能の維持増進を旨とした国有林野の管理経営を進めることとし、民・国の一層の連携を図りつつ地球温暖化の防止をはじめとする国民のニーズに応えた多様で活力ある森林の整備や木材の安定供給等に率先して取り組むとともに、これらの取組を通じて「美しい森林づくり」を推進することとして、次の事項等に取り組むこととします。

一 100年先を見据えた森林づくり

- ア 企業の社会貢献活動としての森林づくりを応援するため、分収林の跡地の「法人の森林」等としての活用を図ります。
 - イ このため、首都圏に位置する立地条件を活かし、首都圏企業等を中心に積極的なPR活動を展開します。
 - イ 協定方式による森林づくりをさらに推進します。
- 特に、平成20年度トキの自然放鳥が予定される佐渡島の「鬼

太鼓の森」で植樹祭を開催するなど、自然再生や木の文化についての国民への普及、NPO等による森林整備・保全活動を推進します。

二 国民のニーズに応えた森林の保全・管理の推進

- ア 天然生林の適切な保全管理に努めます。
 - イ 特に小笠原諸島森林生態系保護地域では、その特異的・原生的な自然を健全な状態で保全管理するため、学識経験者等による委員会を設置し、アカギなど来種対策を実施していきます。
 - イ また、世界自然遺産としての推薦に向けた取組を進めます。
 - イ 国民の安全・安心を確保するため、民有林・国有林一体となつて、中越震災復旧事業を含め治山事業による流域保全に努めます。
 - イ また、保安林の指定をさらに進めます。
- また、都市部の子供たちが下流域に管轄する近隣の森林管理署等に

三 森林環境教育の推進

- ア 都市部の子供たちが下流域に管轄する近隣の森林管理署等に

よる出前森林教室を受講し、その後上流域の国有林において実際に森林と触れ合うなど、上下流連携による環境教育に取り組みます。

イ 本年3月に新庁舎が完成した高尾森林センターにおいて、学校・NPO等多様な主体と連携しながらイベントの開催、林業体験の場の提供等を行い、首都圏の国民に対する国有林全体の情報発信基地として活動します。

四 林業・木材産業の再生

- ウ 群馬県の林業関係団体と共同制作した「森林のかかるた」を活用し、森林・林業・木材を身近に感じてもらい、緑に関する国民の理解の醸成に努めます。
- ア 森林整備を進めるには、低コストで崩れにくい路網の整備・普及が重要な課題です。このため、林野庁林業機械化センターが行う研修のフィールドとして、群馬県内の国有林を提供します。
- イ また、国有林自身の取組として、モデル的な路網の整備や検討会の開催など、積極的な整備・普及に努めます。
- イ スギ短尺材等の需要の少ない丸太のシステム販売や群馬県産材センターへの委託販売の拡大等により、木材の安定供給に一層取り組みます。

労働災害の絶滅を願ひ

安全祈願

4月5日(木) 前橋市総社町の総社神社において平成19年度関東森林管理局の安全祈願式が山川局長、秋元総務部長、鈴木森林整備部長外6名が出席し、厳粛のうちに執り行われました。



安全を祈願する局幹部

平成18年度は、前年度を下回ったものの13件の公務災害が発生し、災害多発傾向が依然として続いております。

このような状況を重く受け止めて、出席者一同、神前において「今年度こそゼロ災の達成」を願ひ、意を新たにしてきたところであります。

(職員厚生課)

赤谷プロジェクト 近況報告

一、「赤谷の森」にモリゾーとキッコロがやってきた

皆さんは、2005年に開催された愛知万博のキャラクターのモリゾーとキッコロを覚えていますか。

そのモリゾーとキッコロが、4月から始まった新番組「モリゾーとキッコロの『森へ行こうよ!』」(NHK教育テレビ)の撮影のために「赤谷の森」へやって来ました。

この番組は、人の暮らす場所のすぐ近くにある森を舞台に、子供達が森と親しみながら生き物のことを知



モリゾーとキッコロの「赤谷の森」デビューです



モリゾーとキッコロに会えて子供達は大喜び

り、新鮮な自然観察体験を通して、それらを守る気持ちを育んでいく姿を追うもので番組には地元猿ヶ京小学校の4年生7人が参加しています。番組は「赤谷の森」の他に、「愛知県・海上の森」と「神奈川県・鎌倉の森」を舞台として、1年間放送されます。

「赤谷の森」を舞台とした番組の放送予定は次のとおりであり、子供向け番組ですが、「赤谷の森」の四季をご覧いただけることと思います。

放送チャンネル NHK教育テレビ
放送時間 9:00～9:15
年間放送予定

放送予定日	内容(予定)
4月28日(土)	赤谷の森の動物紹介

5月12日(土)	ノウサギ
6月9日(土)	ニホンリス
6月16日(土)	両生類
8月4日(土)	総集編(前編)
9月15日(土)	コウモリ
9月22日(土)	水の中の動物
10月27日(土)	ムササビ
11月3日(土)	バードウォッチング
2月16日(土)	総集編(後編)



子供達は自然観察の達人、いろいろなものを見つけてきます

二、さわやか自然白景

NHK総合テレビの「さわやか自然白景」でも「赤谷の森」が次のとおり放送されます。

放送チャンネル NHK総合テレビ
放送日時 5月27日(日)
放送時間 7:45～8:00

現在、撮影が進められており、「赤谷の森」の自然を余すことなく伝えて頂けるのではないかと思います。こちらの方も、是非ご覧下さい。

三、お知らせ

赤谷プロジェクト環境教育の一環で、「赤谷の森自然散策」を開催する予定です。

今回は地元の地域協議会の方の案内で、春の赤谷の森を満喫できるのではないかと思います。

開催場所 赤谷プロジェクト「小出俣林道」

開催日時 5月27日(日)

申し込み締切 5月23日(水)

(20名に達しだい締切)

参加費 無料

詳しくは当センターのホームページ (<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/akaya/news/index.html>) をご覧下さい。

プロジェクトが始動してから4年目を迎えました。今年度も赤谷プロジェクトの現場から、3者(地域協議会、日本自然保護協会、関東森林管理局)協働の取組をお伝えしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

新任幹部の皆さんを紹介します

計画部長

藤江 達之



（略歴）

出身 東京都 昭34・7・13生
東京農工大学農学部林学科卒

林野庁採用

昭57・4 前橋営林局山口営林署長
平4・4 林野庁治山課保安林調整官

平17・10 林野庁林政課調査官
趣味 サイクリング・バードウ
オッチング・オートバイ

モットー 真剣に、そして楽しく

森林整備部長

鈴木 信哉



（略歴）

出身 秋田県 昭32・6・27生

昭56・3 北海道大学農学部林学科卒

林野庁採用

昭56・4 林野庁計画課森林計画官
平元・7 林野庁経営課特用林産対策室長

平18・4 林野庁経営企画課企画官
（総合調整）

趣味 化石収集
モットー 雑用という用はない、雑木という木はない

磐城森林管理署長

石田 裕二



（略歴）

出身 富山県 昭32・7・25生
山形大学農学部林学科卒

昭56・4 林野庁採用
平2・4 熊本営林局日田営林署長
平14・4 九州森林管理局販売課長
平18・4 独立行政法人緑資源機構
計画評価部次長

趣味 釣り、ゲーテニング
モットー 柔軟に、前向きに

利根沼田森林管理署長

飯干 好徳



（略歴）

出身 宮崎県 昭34年12・15生
九州大学農学部林学科卒

昭59・4 林野庁採用
昭62・4 東京局治山課民有林治山第3係長（由比駐在）

平16・4 林野庁研究普及課研究室担当補佐
平18・1 林野庁研究・保全課総括補佐

趣味 海釣り
モットー 打合せは時間より中身

会津森林管理署

南会津支署

中村 昌有吉



（略歴）

出身 岐阜県 昭43・4・25生
平6・3 東京大学大学院農学系研

究科修了

平6・4 林野庁計画課

平15・4 外務省経済協力局無償資金協力課

平17・4 林野庁計画課森林計画官
趣味 サッカー、読書

モットー 基本を忘れずに

東京事務所副所長

（技術指導）
牧野 利信



（略歴）

出身 静岡県 昭35・4・26生
昭58・3 北海道大学農学部林学科卒

昭59・4 林野庁採用（森林保全課）
昭60・4 旭川営林局

平14・2 ネパール（JICA専門家）
平16・4 内閣府PKO事務局参事官補佐

趣味 運動（ゴルフ・スキー等）
モットー 好奇心、向上心

中越山地災害復旧対策室長

松井 拓郎



〈略歴〉

出身 愛知県 昭43・9・9生
 平6・3 東京農工大学大学院農学
 研究科修了
 平7・4 林野庁採用
 平13・8 林野庁計画課係長
 平15・4 森林総合研究所出向
 平17・4 国土交通省北海道局出向
 趣味 音楽
 モットー 誠実

「森林(もり)のかるた」で
学ぼう！遊ぼう！



近年、地球温暖化など地球規模での環境への関心が高まる中、森林の



美しい森林は
みんなの宝物

持つ公益的機能が注目され、その高度発揮が期待されています。

人類共通の貴重な財産である森林の持続的利用を維持していくためには、特に、次代を担う子どもたちが森林に親しみ、ふれ合い、森林・林業の知識を得て、木材利用の意義や森林の持つ多面的機能等について考え、ひいては、自然の大切さを学び、愛する心を育む機会を持つことが非常に重要です。

平成18年9月には、新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定され、今後とも、子どもたちをはじめとする国民に、森林環境教育の機会を広く提供することが求められています。

また、本年2月には、現内閣の重要施策である「美しい国、日本」の礎となるよう「美しい森林づくり推進国民運動」を、幅広い国民の皆様

のご理解とご協力のもと、政府一体となって展開していくことが関係閣僚会合において決定されました。

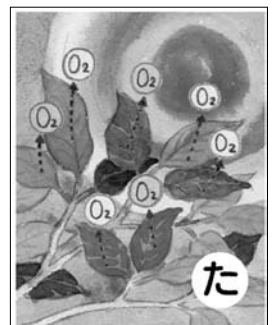
関東森林管理局では、従来から、森林教室、体験林業等の実施やこれらの活動の場となる「遊々の森」を設定し、森林環境教育の推進に取り組んできたところです。

こういった森林環境教育の取り組みの一つとして、子どもたちが、手軽に、楽しく、遊びながら森林・林業に親しみを持つための入り口となる「森林(もり)のかるた」を、群馬県森林組合連合会など森林・林業関係19団体、群馬県、関東森林管理局が協力して制作実行委員を立ち上げ制作しました。

「かるた」の句は、森林、林業、木材、治山、林道及び山村にちなんだ句を、森林・林業関係者等から募集しまし



健全な
森林をつくろう
間伐で



太陽の
光の恵み
光合成

た。

集まった句は全部で約2,000句に及び、その中から、子どもたちに親しみやすく、森林や林業について楽しく学べるものを制作実行委員会において選考・選定しました。

絵札は、手書き調であたたかく、句の内容が一目で伝わるものをイラストレーターと打ち合わせのうえ制作しました。

なお、地方公共団体、学校やNPO団体等におきまして、この「森林(もり)のかるた」を使って、子どもたちの森林環境教育を行いたいとの希望がございましたら、無料にて貸し出したしますので、事前に関東森林管理局指導普及課までご連絡をいただきたいと思います。

(指導普及課)

各署便り

笛吹川地区 民有林直轄治山事業 既成セレモニーを開催

【山梨所】3月29日(木)、山梨市民会館において、山梨市笛吹川源流部の県有林で昭和45年から37年間実施してきた笛吹川地区民有林直轄治山事業の既成セレモニーを開催しました。

当日は、山梨市の地元区長をはじめ、山梨市長、山梨県森林環境部林務長、治山林道課長、峡東林務環境事務所長が出席され、当方からは東京事務所長、局治山課長が出席して、笛吹川治山事業所職員が事業成果の説明を行ったほか、治山施設の管理について、県への引継ぎが行われました。

また、この日から5月18日(金)まで山梨市民会館において、事業の成果を紹介したパネル展示を行っています。

笛吹川地区の事業地内には、3月22日(木)に山梨県内で初めて森林セラピー基地に認定された西沢渓谷が含まれており、当該地区の森林が末永く美しい姿を保ち続けることを期待

しています。



東京事務所長から山梨県林務長へ
図面、台帳を引継いだ

(治山調整官 坂 賢)

苗畑跡地の管理について 地元と意見交換会開催

【福島署】福島森林管理署では、さる3月13日(火)当署の「水保苗畑跡地(約24㌖)」の整備等について地元関係者との意見交換会を開催しました。

地元からはこれまででも多くの要望が出されており、署では個々に対応してきたところですが、要望が多方面にわたることもあり、関係者が一堂に会して意見交換会を行うことを署から呼びかけました。

当日は、各区長さんを始め、農業委員、農協役員、猟友会、簡易水道

組合、社会福祉法人の代表等12名の皆さんに参集していただくとともに、市役所からも参加いただき意見交換を行いました。

特に、全国各地でクマの出没が話題となつているなか、果樹園の被害や隣接して社会福祉施設があることから、跡地がクマの隠れ場所になることが心配されるため、整備のありかたや今後の売り払い方針等について意見・質問が出されました。

署では、これまでも雑草木の刈り払いに取り組んできたことや今後も整備を行うことを説明しつつ、環境の維持について地元の協力もお願いするなど、会議をつうじてお互いの理解を深めました。

(広報連絡官 吉野和久)

地元消防署と 林野火災消火合同訓練

【天竜署】3月7日(水)午前10時頃、三ヶ日町大谷地内国有林から白煙が揚がっているのを付近住民が発見、119通報。連日の異常乾燥と北西の強風のため東方向に拡大」という内容で訓練を想定し、浜松市引佐消防署、浜松市北部消防署そして天竜森林管理署による林野火災消火合同訓練が行われました。

国有林サイドは三ヶ日森林官が消

防の通報を受け、無線により火災の概況を次長に連絡、これを受け各班長に緊急連絡を行うとともに、対策本部を設置、署長と消防応急班が現地へ駆けつけました。

現地では指揮本部を設置。標高差100m、1km離れた出火地点までポンプ隊が消防車5台連携による揚水活動を行いました。

一方、火災現場ではタンク隊と森林管理署職員が合流の上、タンクを設置、各々ジェットシューター(背負い式消火器)を担ぎ、険しい山中を足早に出火地点へ移動、本番さながらに消火活動を行い無事鎮火しました。

最後に市原署長から見事な連携により、初期消火は大変スムーズであ



地元消防署と消火訓練



高尾森林事務所

高尾森林事務所は、昭和61年に高尾森林センター設置に伴い、新築された同庁舎内に事務所が置かれていましたが、高尾森林センターの移転に伴い、現在地に新築されたもので

【東京神奈川署】当署では、昨年度、高尾と世附・丹沢の二つの森林事務所を新築しました。

**高尾森林事務所と
世附・丹沢森林事務所を新築**

つた。また、消防署と森林管理署合同による訓練は大変意義があった旨講評があり合同訓練を終わりました。ご協力いただいた浜松市各消防署に対し衷心より謝意を表する次第であります。(広報連絡官 山本富夫)



世附・丹沢森林事務所

す。

新しい事務所は、事務室と書庫及び車庫を一体とし、屋根は垂木を見せ瓦葺きとするなど、八王子地区の伝統的な建物を意識し、民家風の造りとなりました。建築面積約56平方メートルで、ヒノキを多く使って建てています。

JR高尾駅から歩いて3分と非常に利便性が良く、森林ボランティアや森林保護員(GSS)の皆さんの基地として、また、高尾山の国有林を訪れる皆さんを迎える施設としても、その利用が期待されています。

また、丹沢森林事務所と世附森林事務所は、昭和43年と44年に、それぞれ松田町に新築されましたが、老



受賞者集合

**第10回
森林は友達！作文コンクール
表彰式開催**

【東京事務所】作文コンクールは、旧東京局管内の森林管理署等において

朽化が著しくなったため、合同森林事務所として、新築されました。新しい事務所は、建築面積約45平方メートルで、玄関柱には箱根の国有林で生産されたヒノキの6寸柱を使うなど、スギ、ヒノキを多く使った建物となっています。また、内部は、アカマツの梁を見せる構造となっており、物置スペースとしてロフトを作るなどの工夫もされています。ほのかに木の香りが漂い、来訪者が木の良さを実感できる事務所となっています。(広報連絡官 石井正夫)

3月5日(月)、東京事務所において表彰式を行い、最優秀賞(林野庁長官賞)を受賞された水戸市立梅が丘小学校の峯遥香さんをはじめ18人の受賞者に参加をいただきました。未来を担う子供たちに森林・林業の大切さを伝えることは私たちの使命です。今回の応募作品を読むと、「森の土がやわらかかった」「葉の色は一枚一枚違っていた」「鳥の音が聞こえた」という体で感じたものから、ゴミ問

実施している森林教室を受講した子ども達を対象に平成9年度から(社)東京林業土木協会と共催で始めたもので、今回で10回目を迎えました。当初は300人程度でしたが、昨年度から1,000名を超える応募をいただいております。森林管理署等の努力の賜物と感じています。



最優秀賞 峯遥香さん

題や地球温暖化についての記述も多く、理解力の高さに驚かされました。審査委員会においても9名の審査員が受賞者決定に頭を悩ませていました。

また、今回から「森を育む紙製飲料容器推進協議会」から協賛をいただくことになり、提供いただいたカトカンジュースを表彰式の後に全員でいただき、間伐の意義を再認識しながら終了しました。

(調整連絡官 幾久正行)

「高性能林業機械の効率運用に係わる現地検討会」開催

茨城署 3月12日(月)、当署蟹沢国有林の立木販売ヶ所(間伐)において、茨城県林業協会との共催で高性能林業機械を効率的に使用し、更なる高生産性・低コスト化を図るための現地検討会を、開催しました。

当日は講師に(有)佐川運送社長、林業機械の専門家である八木氏をアドバイザーに迎え、管内の登録林業事業者の現場代理人や茨城県、関係団体等の担当者、それに当署職員を加えた約100名が参加しました。

高生産性・低コスト化を図るためには、地形等に応じた効率的な作業路の設定と開設、伐倒、木寄、枝払・



高性能林業機械による集材作業



作業路の作成、間伐の状況について検討する参加者

玉切、集運材の一連の作業工程を有機的に連携・実施することが不可欠であり、これを実践するために、
① 伐区の地形や所有機材、人員配置等を踏まえた作業工程間の連携の考え方

② ①を踏まえた作業路開設の考え方

等について、現地における実践や説明を通じて参加者の技術と知見の向上を図りました。

最後に安全作業の中で、効率的な事業を進めていくため、参加者全員今回の検討会を事業実行に活かしていくことを確認して散会しました。

(広報連絡官 井坂昇二)

カンボジア森林局職員が来署

磐城署 3月8日(木)～9日(金)、日本における一般的な人工林施業や先進的な木材加工技術等を視察するため、カンボジア国森林局の職員2名が磐城署を訪れました。

1日目は、遠野森林事務所管内の立木販売箇所(スギ34年生間伐)において、高性能林業機械による伐採・搬出作業を視察しました。

中でも、枝払いと造材を瞬時に処理できるプロセッサに強く興味を示していました。

2日目は、山部署長等の案内で、勿来森林事務所管内の新植や除伐・間伐箇所、さらに、107年生の目兼スギ展示林を視察しました。

その後、「協同組合いわき材加工センター」及び「いわきプレカッタ協

同組合」の工場を訪れ、コンピュータ制御による先進的な木材加工技術やプレカットの工程等を視察しました。

カンボジアでは、現在、違法伐採対策や伐採後の更新が大きな課題となっているようですが、伐採跡地には、主にアカシアを植林し、紙の原料等として輸出しているとのこと、日本の林業事情とは大きく異なるようです。

研修生は、一連の視察・研修で得た知見を「本国での林業行政の推進に役立てたい」と抱負を語ってくれました。



高性能林業機械による間伐を見学

(広報連絡官 高橋忠男)

「どんぐりの森」で植樹祭 〜東京から50名が参加〜

群馬署 4月8日(日)、本年3月1日(木)にNPO法人ドングリの会(会長は、オークヴィレッジ代表でもある稲本正氏)と「ボランティアの森」の協定を締結し、「どんぐりの森」と名付けられた安中市松井田町霧積山国有林内で、ドングリの会会員、四万林業協業組合員、群馬森林管理署の職員ら総勢55名が参加し、コナラやクヌギ等の植樹が行われました。



「早く大きくなってネ」と植樹する親子づれ

植樹に先立ちドングリの会福井晶子理事が「3年かかって、やっとこの地を探すことが出来ました。ご協力いただいた群馬署、関東森林管理

局指導普及課、また、地拵にご協力いただいた四万林業さんに深く感謝します。」との挨拶がありました。

また、群馬森林管理署長からは、「50年生のスギ立木はおおまかに言って1本2,000円。ホームセンターでは、10.5^{センチ}角、長さ3^{メートル}の柱材が1本2,000円、欧州産のホワイトウッド集成管柱は1本2,300円で売られている。2万3千^円も離れた欧州産の木材ではなく、国産材を使うことで、林業生産活動が活発化し、地球温暖化防止、美しい森林づくり、そして、地域の活性化につながります。」との話がありました。

また、四万林業岡本代表理事から「地拵作業のお手伝いができ、皆さんに喜んでもらえて良かった。どんぐりの苗木がすべて根付くことをお祈りします。」と挨拶がありました。

植樹は、当署やベテラン会員等の指導を受けながら、コナラやクヌギの大苗(2^{メートル}位)350本を2人1組となつて行いました。

はじめて参加した女性会員は、「傾斜地に植穴を掘るのは大変でしたが、コナラやクヌギが早く大きくなってほしいと願って植えました。是非、また参加したいです。」と声を弾ませていました。

芽吹き季節が始まった霧積ダム

湖畔での作業は、約4時間で終了し、今回の植樹は、本年の秋に実施する予定となっております。

(流域管理調整官 大滝芳廣)

昭和の森会館 リニューアル

伊豆署 当署管内の道の駅・天城越え内の「昭和の森会館」がリニューアルし、4月14日(土)オープンセレモニーが行われました。

このことよつて、これまで有料だった森林博物館と伊豆近代文学博物館が整備され、森林博物館は森の情報館として無料で利用出来るようになりました。

この情報館にはこれまでどおり、御料時代の文書や写真、当時の職員が使用していた外套などが展示され、伊豆の森林・林業、国有林の歴史が分かりやすく紹介されています。

これまでであった太郎スギのレプリカは撤去されましたが、バーコードを利用して木の葉の種類や特徴などを知ることが出来る「木の葉かるたとり」や昭和の森(自然休養林)に生息する野鳥の鳴き声を聞くことが出来るようになり、利用者がこれまでに以上楽しめるようになりました。

平成10年の治山工事で出土した神代スギ(774年生)、神代ヒノキ

(1,067年生)も、太古の伊豆を物語る歴史の遺産として展示されており、当署ではこの施設を森林環境教育のモデルコースとして活用することとしています。



手前が神代スギ、奥が神代ヒノキ

(総務課長 北野恭行)



森林官からののおたより

棚倉森林管理署 高城森林事務所 森林官 山田 隆也

高城森林事務所は、福島県南部に位置する東白川郡塙町及び矢祭町に至る約3,600haの国有林を管理しています。

八溝山地を源流とする久慈川が中央を南流する東白川郡は、国有林・民有林を問わず古くから林業が盛んな地域で、良く手入れされた通直で完満な木材は『奥久慈材』として地元はもちろんのこと、首都圏にも供給されています。

特に、八溝山地は適潤肥沃な土壌が多いことから樹木が良好な生育を



協議会の模様

示しており、スギ・ヒノキを主要樹種として人工林化がなされています。

そのため当事務所の主作業は収穫業務であり、年間を通じて収穫調査に明け暮れる日々を過ごしています。

八溝山系は起伏に富んだ急峻で崩れやすい山腹斜面が特徴で、調査箇所までたどり着くのに、30分ほどは20分ほど沈む、を繰り返しながら1時間近く掛かった時などは、「もうあかん：今日はこれぐらいで勘弁したる：」と3回程負け惜しみをつぶやいて心が折れそうになった事もありましたが、ベテランの基幹作業職員の方にもいつも励まされながら1箇所ずつコツコツと業務をこなしています。

収穫調査は意外と地味で単調な仕事なのですが、毎木調査を終えて現場から引き上げる瞬間に後ろを振り返り、見渡す限りテープが巻かれている景色を目にすると、一仕事終わったなあと心地良い達成感があり、それを酒の肴にしての晩酌はまた格別です。

ただ問題もあり、いつも調査は2〜3人で行うことがほとんどなので、どうやったらきつい山道を何往復も

することなく効率良く仕事を進めて行けるかを話し合う事が多々あるのですが、その度に「もつと地元に着いた人がたくさんいればなあ」という話が出ます。

林業従事者の高齢化が進んでいるように、管内の地元でも若い人が少なく、山歩きが達者な方はほとんどいません。臨時雇用で出ている方も先輩の方であり、今後ますます後継者不足が顕著になってくると思われ、何とか解決策を考えていかなければと痛感しています。

そんな収穫業務ばかりで一般の方々や接する機会が少なかつた当事務所ですが、平成18年度末から地域発案システムの一環で、地元塙町及び観光協会と協力して台宿国有林を流れる滝沢の滝（男滝・女滝）をメインとした遊歩道を設定し、一般の方々に森林をもっと身近に感じて貰おうという取り組みが始まりました。

この取り組みはキノコ取りの方達が官民地境を流れる滝沢の滝を知っておられ、道を整備して何とか観光資源の一つとして利用できないかという所から始まったもので、滝から一尾根越えた場所に塙町の『塙ふれあいの森』があり、その間を周回するコースを整備する事となりました。昨年末には現地踏査により何通り



現地踏査を終え「男滝(おだき)」前で記念撮影(前列左から2人目が塙町長)

かコースを考え、「塙町西部ふれあいの森林協議会」が発足しました。

今年度はコースの整備を行い、案内看板を設置し、一般参加者を募集して森林教室等のイベントを行う予定です。

始まったばかりでまだまだ課題もありませんが、話し合いを続けながら良い方向に向かっていけるよう頑張りたいと思います。

山に囲まれた町で森林が身近にありながらも普段の生活から自然が遠くになつていく時代ですが、一般の方達にもっと自然と接する機会を増やし様々な経験や感動が得られるように少しでもお手伝いできればと考えています。

私の視点

「トチの森づくり」を目指して

五泉トチ守りの会 石黒俊夫

「森の巨人たち百選」に選ばれた大トチの木は、推定樹齢350年、樹高25m、幹周り7.4m、トチノキ特有の樹肌の巨幹が直立し、巨木の王様の偉容と風格を備え、枝葉を大きく広げ聳え立つ姿はまさに圧巻です。

五泉トチ守りの会は、このトチの木の保護と郷土の森の自然環境を大切に平成13年に発足しました。活動の基本は、百年経て年輪を刻む樹木のようにゆつくりでも確実に進むために、あそび心を忘れず、楽しさをモットーに、森林観察会を始め郷土

一周巨木めぐり等イベントを開催しながら「トチの森づくり」を目指しています。

一、観察会は自然環境保護を守る

菅名岳は、県内でも稀なブナ林・ユキツバキ群落とカツラ林を含む原生林が分布している里山です。この一帯は「郷土の森」として市民に開放され、沢沿いはトチ、サワグルミと珍しいカツラ林の群落がみられます。

また多湿のところに生育する植物が繁茂し、県内でも稀産種であるイワオモダカ等の着生植物が生育し、



「森の巨人たち百選」に選ばれた大トチの木

中腹はブナ、ユキツバキ群落があり、自然の豊かさが一杯つまったところ。以前、自然に対する総理府の調査では94%の人が、「自然は大切にすべきだ」と答え、うち



「いずみの里」の人たちとのトチの木の種まき

74%の人が「自然が心の安らぎを与えてくれる」との答えがありました。まさに森の豊かさに親しんでもらうことが一番です。

観察会を通じて森林サポーターを増やすことが自然環境保護への道と考えます。

会では、森林インストラクターの下で、山や森の働きと自然環境を学びながら、トチやブナの木肌に聴診器を当てて呼吸音を聞くとか、木の温もりや枯葉の絨毯を踏みしめながら、森の豊かさを感じて貰える様な森林観察会を重ねています。

二、実生から育て「トチの森づくり」を目指して

大トチの木がくれた宝を保護するために、平成17年秋に山からトチの

実を拾い、知的障害者更生施設「いずみの里」のご協力をいただき、千粒の種蒔きをしました。雪解けを待って春一番の草取りは、顔を出したばかりの新芽に、あちらこちらから歓声が上がリ、楽しい作業でした。発芽率も75%位で初めての種蒔きとしては、上出来と自己満足しています。

2回目は真夏の暑い中での草取りを経て、秋の市民学習フェスタに「実生から育てた苗木」20鉢を市民に配布し「トチの森づくり」のPRをしました。次の世代に残せる一代イベントとなりますが、実生から育てたトチの木の木陰でトチ餅を食べる夢を見ながら「トチの森づくり」を目指しています。



五泉トチ守りの会の観察会

間伐の推進・低コスト 路網の普及に向けて

関東森林管理局管内の人工林面積は林地面積全体の約34%、35万ヘクタール、そのうち20〜45年生のいわゆる間伐適齢期の森林は約26万ヘクタール、74%に上ります。

間伐は、保育の最終段階の作業で、従来の優良な木材の生産を目的としたものから、健全な森林の育成・整備による地球温暖化の防止や水源のかん養、土砂の崩壊・流失の防止、更には野生動物の生息環境の保全など、森林の持つ多面的機能の高度發揮とともに、スギ・ヒノキの花粉量抑制などを目的に加え、さらに

は、「美しい森林づくり推進国民運動」の展開について（平成19年2月23日美しい森林づくりのための関係閣僚による会合で了承）においても、積極的な推進が益々求められているところだ。

また、そこから生産された間伐材は、主に足場丸太や土木用の杭などに使用されてきましたが、現在は合板の材料や集成材の部材となるラミナと呼ばれる薄板に加工され、外材が大部分を占めていたエンジニアードウッドに用途を広げており、違法伐採問題が国際的に議論される中、国産材のシェア拡大にとって重要な位置を占めています。

今後、さらに国産材のシェアを拡大していくためには、材の安定供給

が不可欠であり、低コストで効率的な作業システムの構築が課題となっています。

現在、関東森林管理局では、現地の地形や土質等に対応した壊れにくい路網の普及整備を進めており、平成19年度においては路網に係る人材の育成を始め、それぞれの現場において普及定着を図っていくこととされています。

持続可能な森林経営の推進や国産材のシェア拡大にとって、今が間伐等の推進による森林の整備・保全と、国産材の利用拡大を通じた森林・林業の再生を図るチャンスと捉え、国民の期待に応えられる森林づくりに取り組んでいきます。（販売課）

一枚の写真



点検を終え山元へ向かうトローリー班

一枚の写真は、当時、北魚沼郡入広瀬村大字大白川新田字五味沢（現中越森林管理署管内）に所在した五味沢製品事業所での追憶のスナップ写真です。

五味沢製品事業所は、長岡宮林署時代の昭和15年に官行研伐（製品）事業所として開設され、昭和51年に五味沢の36年間の歴史を残し幕を閉じました。

開設当初は本邦随一のブナ材とたたえられ、家具材、合板材そして航空用材等の軍用材及び木炭の生産が主として行われましたが、

戦後は良質材は家具材、フローリング、低質材はパルプ等の需要に応え、最盛期には年間1万立方メートルの丸太が生産されました。この写真は、最終土場である五味沢製品事業所からトローリーに乗り山元に向かうトローリー班（トローリー）の様子です。

トローリー班は活気のある人達の集まりで常に飯場に14〜5名が寝泊まりしており、朝6時頃のトローリー金具類の点検と元気のよい唄声で一日が始まります。

トローリー班が現場に行ったあと

は、炊事婦さん達だけとなり静けさが帰って来ます。

11時頃になるとトローリーは制動の音をききませ土場に入ってきて、丸太を固定したカスガイのほざれる音でまた活気が戻り、夕方また同じ光景が繰り返り広がられます。

特に美声の持ち主が数人おり、その唄声は土場中に響いたようで、その様子が写真からも覗かれます。

（中越署 広報連絡官 廣野喜美夫）



作業路と間伐実行状況

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL(027) 210-1115
FAX(027) 210-1115

